

目次

ハザードマップの使い方 01

●風水害

避難のポイント「洪水」..... 02

洪水ハザードマップと避難情報について 03-04

洪水ハザードマップ

荒川 05

利根川 06

県管理河川 07

重ね合わせ図 08

拡大図(重ね合わせ図)

エリア1	09・10
エリア2	11・12
エリア3	13・14
エリア4	15・16
エリア5	17・18
エリア6	19・20
エリア7	21・22
エリア8	23・24
エリア9	25・26

●地震

地震が起きたら 27・28

地震ハザードマップ

揺れやすさマップ 29

液状化危険度マップ 30

●防災

避難所生活での心得／ペットの避難 31

自助・共助・公助の連携 32

避難所・避難場所／避難所開設の流れ 33・34・35・36

情報を入手しましょう 37

災害の「備え」チェックリスト 38

わが家の防災メモ 裏表紙

ハザードマップの使い方

- step 1 自宅周辺の確認**
ハザードマップで自宅の位置、想定される被害の状況を確認しましょう。
- step 2 避難経路の確認**
最寄りの避難所等を確認して、避難経路を考えてみましょう。
- step 3 避難経路を歩く**
避難経路を実際に歩いてみて、危険な場所がないか確認しましょう。問題があれば、見直しましょう。
- step 4 家族等との確認**
家族や近所の方と災害時の連絡手段、避難先などについて確認してみましょう。

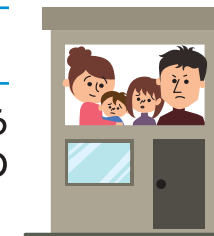


避難のポイント「洪水」

「自らの命は自らが守る」意識をもち、適切な避難行動をとりましょう

■ 垂直避難

安全な場所にいる人まで避難所へ避難する必要はありません。水害時は2階以上への垂直避難も検討しましょう。



■ 親戚・知人宅への避難

市が指定する避難所以外への避難も検討しましょう。安全な地域に住む親戚・知人宅へ避難することも考えてみましょう。



危険を感じたら、避難情報を待たずに安全な場所へ避難しましょう。

- 夜間の避難は危険。** 可能な限り明るいうちに避難する。
- 原則、徒歩で避難する。** 車の避難は故障による二次災害や緊急車両の妨げとなります。避難所の駐車場は限られています。
- 隣** 近所に声をかけ、集団で避難する。病人や歩行困難な人を地域で助け合う。
- い** ざという時、居場所を知らせるために、笛(ホイッスル)を持っておく。
- 河川** や田んぼ、畑の見回りは避ける。
- 垂** れ下がった電線に触れない、近寄らない。
- 道** 路冠水時は、側溝、水路、マンホール(ふたが外れている)が分かりにくく危険! ふだん通っている道でも真ん中を慎重に歩く。
- 流** 深は膝下くらいが目安。それ以上なら無理して移動せず、高いところで救助を待つ。
- 非** 常用持ち出し品は必要最低限にとどめ、背負って両手が自由に動かせるようにする。
- 先** 導者は、くぼみや溝を確認するために、長い棒をつえにしながら歩く。
- 2** 人以上で避難する。道路冠水時は、ロープでつないで避難する。
- 運** 動靴を履いて避難する。長靴は水が入って歩きにくく危険! はだしは厳禁!

家屋・家財を守る

側溝や排水溝の掃除をしましょう

普段から、側溝や排水溝の掃除をして、水はけをよくしておきましょう。



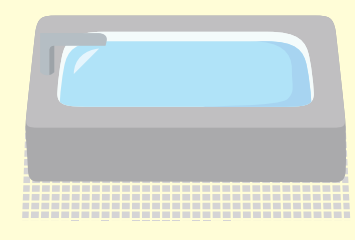
大切なものは高い場所へ

通帳・保険証・パスポート等の重要書類や移動できる家電製品、思い出のアルバムなどは、浸水しない高い場所に移動しておきましょう。



浴槽の水はためておきましょう

断水時のトイレ用水、生活用水としての利用などの利点があります。



洗濯機・風呂などの排水口やトイレからの逆流防止

排水口からの逆流を防止するため、水を入れたビニール袋でふさぎましょう。また、トイレの便器の中にも入れておくと、逆流を抑えられます。



事前に
入れておく